NIE実践報告

１．タイトル：情報の精選収集は社会変革の起爆剤

２．学校名

高知県土佐町立土佐町中学校

３．実践者名（代表者名）

田渕　瑞世

４．学年

第1学年、第2学年、第3学年、図書委員会、選択社会

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会、総合、委員会活動　95人

６．単元（本時の学習課題）名

第1、2、3学年:現代社会の課題と対話。図書委員会:書籍案内。選択社会科:観光立国、地域発信

７．目標（狙い）

1年:沖縄修学旅行学習から沖縄の持つ問題点について調べ、追求し、解決策を考え発表しあう。
2年:地域と民主化運動とのつながりを調べ、保持、継続のための国民意識を持つ。

８．評価の視点

1年:沖縄の持つ問題に気づくことができ、仲間に分かりやすく伝えられたか。解決策を協力して考えられたか。
2年:自分たちの地域と、民主化の歴史との関連をさらに生かすための学習に、意欲的に取り組むことができたか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

1年:沖縄修学旅行学習(6時間)、2･3年:教科書の補充資料。図書委員会:レファレンスの活用(5時間)。選択社会科:10時間くらい。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1年:修学旅行予定の沖縄が日本全国に発信していることは何かを探す。それについて意見や感想を発表する。同じ記事を集めたものたちでグループを作り、分かりやすく伝える発表を行う。
2年:幕末から特に明治以降における変革と民主化に取り組んだ高知県の人物に焦点を当て、記事を集める。特に、中江兆民、幸徳秋水の記事をきっかけにして、努力と犠牲の上に獲得した民主主義について話し合い、維持していくための話し合い、維持していくための努力について宣言文を考える。
3年:衆議院解散に伴う総選挙から国会運営について流れを確認する。公聴会→臓器移植法改正案→生存権→国外臓器移植とそれに伴う国外犯罪組織→話し合い、思考、意見を持つ。老齢加算置き去り→生活保護法→生存権。ハンセン病→生存権、人権侵害。オリンピック→経済効果、誘致。日本と世界と民族の関わりから日本人として考え、意見を持つ。
図書委員会:学校における情報の発信源として、図書のレファレンスを図る。現状施設を効率化するために自らが動く組織であることを学ぶ。施設化以前のための嘆願書作成。直訴に及ぶ。
選択社会科:地域で発信できるものを探し、記事、撮影、インタビューの収集を行う。多くのパンフレットを参考

11．児童・生徒の反応、感想・意見

学校の教科学習は、社会の出来事と並行しているのだということを実感し、単に情報を受け取るだけでなく、発信することの必要性を知った。同じ記事でも書き方や講評により、伝わり方が読み手に大きく違ってくる。一部の報道だけでなく、何種類もの報道に接して物事を判断することの必要性を学んだ。

12．成果と課題

情報の共有は、今ある現状を見つめ直すよい資料となる。そして、それを打開するために何をどのように行えばよいのかよりよい水先案内人となる。自分たちの学校の不十分な点に目を向け打開する方向へと立ち上がったことはすばらしい(図書委員会)。ただし、情報に扇動された過去の歴史を振り返ると、やみくもに情報を信じるにはあらず。そのために、数多くの情報の収集と精選の必要性を知り、同時に、新聞は到着点ではなく、単なる入口であること。それをきっかけにして多くの書物や情報と出合う必要性を感じさせるための指導が大切であると考える。